

『しつぱいにかんぱい!』を読んで

対象作品／宮川ひろ作 『しつぱいにかんぱい!』 童心社

弘前市立和徳小学校

神

明 李

わたしは、『しつぱいにかんぱい!』というお話をえらびました。その理由は、このお話がおもしろそうだと思ったからです。

このお話は、主人公のお姉ちゃんのかなが、運動会のリレーでしつぱいしてしまい、おちこんでいるときにおじいちゃんから電話がきて、おじいちゃんの家に行きます。そして、おじいちゃんの家でみんなのしつぱいした話をきいて、すこし元気になったお話です。

わたしの心にかつた場面は、よこはまのおじいちゃんが言った「しつぱいには、いのちにかかわるほどの大きなしつぱいもあるけれど……。しつぱいして大きくなるんだし、とまがたつと、しつぱいがいい思い出になるんだね」という言葉です。なぜなら、わたしも学校でそうじの時に、バケツにいった水をこぼしてクラスのみんなにめいわくをかけて先生におこられたことがあります。その時は、みんなにめいわくをかけてとてもおちこみました。けれども、そのしつぱいを

してからは、同じしつぱいをしないように気をつけるようになりました。しつぱいしたときはいやな気持ちになるけれども、しつぱいして大きくなるということは、こういうことなのだと思います。もう一つ心にかつた場面は、いとこの洋が学校でサッカーのまねをしてキックしたら、しょうこう口のとびらにあたつてあついガラスにひびが入り、こまつているときにクラスで一番のいたずらの大きくんが、いっしょに先生のところへあやまりにいってくれた話です。なぜなら、いたずらの大きくんがいっしょにあやまりに行こうとしたからです。いたずらばかりしているけれども、友だちがこまつているときに、すぐにたすけてあげるところがやさしいと思います。わたしも、友だちがこまつているときは、たすけてあげたいと思います。

わたしは、この本をよんでしつぱいすることがこれからもたくさんあるかもしれないけれども、しつぱいをおそれずにいろいろなことにはようせんしていききたいと思いました。そ

して、かなのおじいちゃんやおじさん、お婆さんのように自分のしつぱいした話を、わらいながら明るく話せるような大人になりたいと思いました。わたしのおじいちゃんやお婆あちゃんの、昔のしつぱいした話もきいてみたいと思いました。

この本のタイトルの『しつぱいにかんぱい！』というのは、しつぱいから学ぶことがあるので、おいわいする時のように「かんぱい」と言っただけと思いました。